

自己評価シート【油面住区センター児童館】

1、福祉サービスの基本方針と組織

1-1 理念・基本方針

1-1-1 (1) 理念、基本方針が明文化（児童館内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等））され周知が図られている。	
【判断基準】 (a) 児童館の理念、基本方針が適切に明文化されており、職員、利用者等への周知が図られている。 (b) 児童館の理念、基本方針が明文化されているが、内容や周知が十分ではない。 (c) 児童館の理念、基本方針の明文化や職員、利用者等への周知がされていない。	
【自己評価】	実践例（取組や記録等）
<input checked="" type="checkbox"/> a)、 <input type="checkbox"/> b)、 <input type="checkbox"/> c)	児童館の理念や基本方針は目黒区児童館運営指針に明文化されており、自館の事業総括・年間計画を作成する際には、各職員が運営指針を参考にして作成するようにしています。利用者に対しては、自館独自のパンフレットにて児童館の理念等を伝えるようにしています。
1-1-2 (2) 理念、基本方針の確立・周知について	
良いと思う点	改善が必要だと思う点
児童館の理念や基本方針は目黒区児童館運営指針に明文化されています。その指針を活用することで、職員間で理念や基本方針を共有することができます。	児童館事業（あそびのつどい、平和祈念行事等）を実施する際には、理念をもとに事業の目的やねらいを職員間で共有するようにしています。また、実施した際には、利用者にも目的やねらいが伝わりやすい言葉選びを意識しています。 今後は、児童館の理念を深めていくために更なる周知が必要だと感じています。

2、児童館の活動に関する事項

2-1 児童館の理念・目的及び施設特性

2-1-1 (1) 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理念や基本方針等に盛り込んでいる。	
【判断基準】 (a) 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理念や基本方針等に盛り込んでいる。 (b) 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理念や基本方針等に盛り込んでいるが、十分ではない。	

(c) 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理念や基本方針等に盛り込んでいない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
<input checked="" type="checkbox"/> a)、 <input type="checkbox"/> b)、 <input type="checkbox"/> c)	目黒区児童館運営指針をもと自館の事業総括や年間計画を作成しています。また、新たな事業を企画する際にも、指針の理念をもとにその事業のねらいを定めています。
2-1-(2) 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の施設特性を發揮している。	
【判断基準】	
(a) 児童館の施設特性を發揮している。	
(b) 児童館の施設特性を發揮しているが、十分ではない。	
(c) 児童館の施設特性を發揮していない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
<input checked="" type="checkbox"/> a)、 <input type="checkbox"/> b)、 <input type="checkbox"/> c)	土曜、日曜の午前中に乳幼児を対象にしたプレイルーム開放を行い、平日の17時以降に中高生を対象としたプレイルームと図工室（勉強等での利用を目的とした）の占有タイムとしています。児童館特有の施設特性を各年代が有効的に活用できるような時間を設けています。
2-1-(3) 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	
【判断基準】	
(a) 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	
(b) -	
(c) 子どもの権利擁護に関する取組が十分ではない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
<input checked="" type="checkbox"/> a)、 <input type="checkbox"/> b)、 <input type="checkbox"/> c)	目黒区子ども条例の館内掲示や本の展示を行い、日常的に触れる機会を作っています。また、らっぴーミーティング（子ども会議）を通して、子どもの権利擁護の話をしています。あそびのつどいでは、子ども同士のふれあいを通して、障害児が日常的に様々な部屋で遊べるような支援を行っています。
2-1-(4) 児童館の理念・目的及び施設特性について	
良いと思う点	改善が必要だと思う点
乳幼児から高校生が、様々な目的に応じた利用ができるように、利用者の意見や利用状況に合わせて年齢対象者別の時間等を設けています。時間を設定したことで乳幼児の一般来館は増えてきています。	占有タイムなどを設けて、各年代が施設特性を活かした利用ができるようにしていますが、更なる周知が必要だと思っています。

2-2 遊びによる子どもの育成

<p>2-2-(1)</p> <p>子どもの発達の特徴や発達過程を理解し、一人ひとりの心身の状態を把握して子どもの育成を行っている。</p>	
<p>【判断基準】</p> <p>(a) 子どもの発達の特徴や発達過程を理解し、一人ひとりの心身の状態を把握して子どもの育成を行っている。</p> <p>(b) 子どもの発達の特徴や発達過程を理解し、一人ひとりの心身の状態を把握して子どもの育成を行っているが、十分ではない。</p> <p>(c) 子どもの発達の特徴や発達過程を理解していない。</p>	
<p>【自己評価】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> a)、<input type="checkbox"/> b)、<input type="checkbox"/> c)</p>	<p>実践例（取り組みや記録等）</p> <p>子どもの様子について気になることは打ち合わせ等で共有し、全職員が共通理解を持って、子どもの発達に応じた声掛けや対応がとれるようにしています。また、保護者へ児童館で対応したことを伝えながら保護者の意向を把握し、安心して児童館利用できるように配慮しています。乳幼児活動では、対象年齢に応じた活動を提案し、保護者の思いに寄り添いながら日々の児童館利用につなげていけるようにしています。</p>
<p>2-2-(2)</p> <p>子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしている。</p>	
<p>【判断基準】</p> <p>(a) 子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしている。</p> <p>(b) 子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしているが、十分ではない。</p> <p>(c) 子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしていない。</p>	
<p>【自己評価】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> a)、<input type="checkbox"/> b)、<input type="checkbox"/> c)</p>	<p>実践例（取り組みや記録等）</p> <p>各部屋で子どもが遊びを選択できるようにあそびの一覧を掲示したり、プレイルームの遊び決めは子どもたちが主体となって決めたり、子ども同士で遊びを選択できるようにサポートしています。</p>
<p>2-2-(3)</p> <p>子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるように援助している。</p>	
<p>【判断基準】</p> <p>(a) 子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるように援助している。</p> <p>(b) 子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるように援助しているが、十分ではない。</p> <p>(c) 子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるような援助を行っていない。</p>	

【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
<input checked="" type="checkbox"/> a)、 <input type="checkbox"/> b)、 <input type="checkbox"/> c)	中高生の来館が日常的にあり、小学生は来館する中高生と遊ぶことを楽しみにしている様子が見られます。児童館まつりや住区まつりなどの行事では中高生が積極的に手伝う姿や低学年を引っ張る様子など、とても良好な異年齢の関わりが見られます。たいこクラブでは、中高生クラスの子どもたちが初級クラスの練習に入り、打ち方の手本を見せたり、裏打を叩いたりして異年齢で教え合う姿もあります。
2-2-(4) 遊びによる子どもの育成について	
良いと思う点	改善が必要だと思う点
一人で来館しても他児と楽しく遊べて、その遊びを通して異年齢との関わりを持つことができます。児童館での遊びを通して、子ども同士の認め合いや思いやりを大切にした仲間づくりができています。	遊びの中で気になる発言などがあった場合は適宜職員から声をかけ、居心地の良い環境がつけられるように働きかけています。今後は、様々な場面で子ども同士がお互いを尊重し、自身で解決する力を身に付けていけるように支援していきます。

2-3 児童館の安全管理

2-3-(1) 緊急時（事故、感染症の発生時など）の対応など利用者の安全確保のための体制が整備されている。	
【判断基準】	
(a) 利用者の安全確保のために、体制が整備され機能している。	
(b) 利用者の安全確保のために、体制が整備されているが、十分に機能していない。	
(c) 利用者の安全確保のために、体制が整備されていない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
<input checked="" type="checkbox"/> a)、 <input type="checkbox"/> b)、 <input type="checkbox"/> c)	子どもの怪我や体調不良が発生した際は、複数職員での確認に加え、朝会や昼会で経過を報告し共有しています。対応について振り返ることで、職員間で共通の認識が持てるように努めています。
2-3-(2) 利用者の安全確保のためにリスクを把握し対策を実行している。	
【判断基準】	
(a) 利用者の安全を脅かす事例を組織として収集し、要員分析と対応策の検討を行い実行している。	
(b) 利用者の安全を脅かす事例を組織として収集しているが、要員分析と対応策の検討が十分でない。	
(c) 利用者の安全を脅かす事例を組織として収集していない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）

<input checked="" type="checkbox"/> a)、 <input type="checkbox"/> b)、 <input type="checkbox"/> c)	<p>自館の災害時初期対応マニュアルは、状況に合わせて毎年更新をしています。月に一回実施している訓練は、地震や火災、防犯訓練等様々なシチュエーションを想定し、担当を割り振り、全職員が訓練内容の企画から行うことで、安全管理に対する意識を持つことができます。</p>
--	---